

8. 河川空間の利用状況

8-1. 河川の利用状況

緑川は熊本市郊外を流れることなどから、四季を通して散策や水遊び、釣りを主体とした河川利用がなされている。年間河川空間利用者総数(推定)は約32万人である。

利用形態別では散策などが61.6%と最も多く、次いで釣りが14.6%を占める。スポーツは14.3%、水遊びは9.5%であった。

利用場所別では高水敷が58.9%、次いで水際18.4%、堤防17.1%、水面5.7%であった。

平成15年度は平成13年度と比較して、総利用者で約34.2%減少している。しかし、利用場所別にみると、堤防の利用は増加しており、平成13年度の約2.3倍増加している。

また、調査日毎の利用者数の総数では約1.2倍増加している。利用形態別にみると、特にスポーツでの利用は3倍の増加がみられた他、散策等での利用の約1.4倍増加している。利用場所別にみると、得に堤防の利用は2倍の増加がみられた他、高水敷の利用も約1.4倍に増加している。中流部乙女橋付近の高水敷に広がる津志田河川自然公園でのピクニックや水遊びの行楽者が増えたほか、24k付近にはグラウンドゴルフ場(グリーンパル交差)でのスポーツとしての利用者の人気に影響していると考えられる。

表 8-1 年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成13年度	平成15年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ	50	45	<p>散策等(50.2%) スポーツ(10.4%) 水遊び(9.5%) 釣り(22.3%)</p>	<p>散策等(61.6%) スポーツ(14.3%) 水遊び(9.5%) 釣り(14.6%)</p>
	釣り	107	46		
	水遊び	82	30		
	散策等	241	194		
	合計	480	316		
利用場所別	水面	77	18	<p>堤防(4.8%) 水面(16.0%) 水際(23.3%) 高水敷(55.8%)</p>	<p>堤防(17.1%) 水面(5.7%) 水際(18.4%) 高水敷(58.9%)</p>
	水際	112	58		
	高水敷	268	186		
	堤防	23	54		
	合計	480	316		

出典：河川水辺の国勢調査 平成15年度河川空間利用実態調査(緑川)報告書

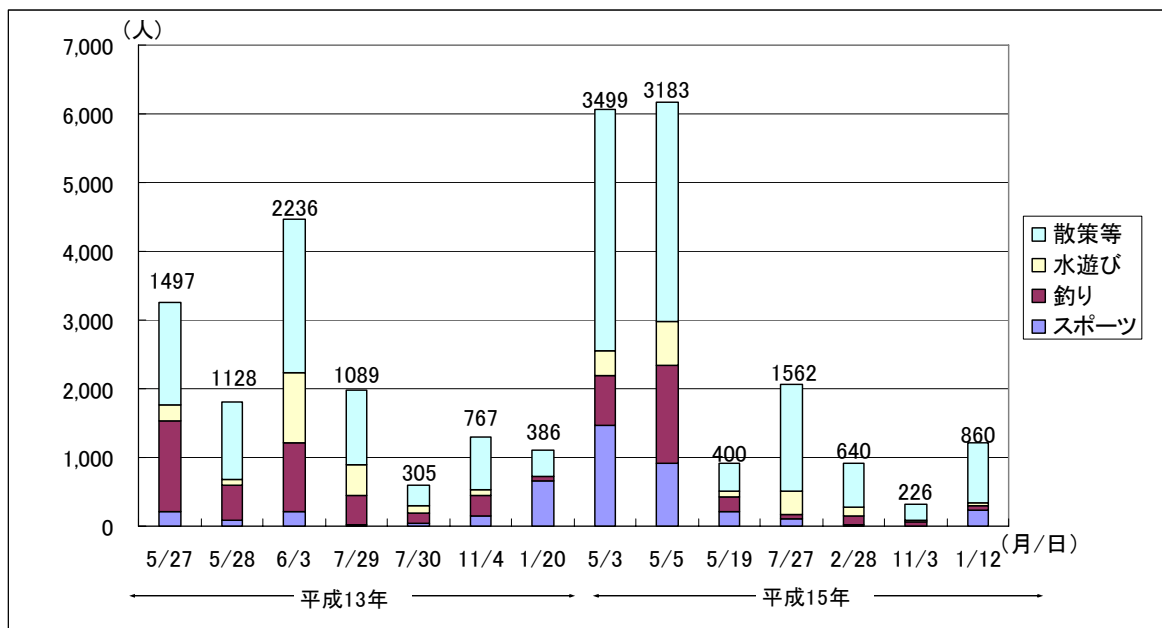


図 8-1 各調査日の利用者数



ゴールデンウィークで賑わう
津志田河川自然公園※2



水遊び※2



堤防沿いの散策※2



釣り※2

8-2. 河川敷の利用状況

緑川の高水敷の面積は約 500ha である。高水敷は 4k～8k (左岸)、8k～14k (左右岸)、18k～21k (左岸)、及び 27k (右岸)付近に多く分布している。高水敷面積に対する河川利用施設(公園、グラウンド等)の占用面積割合はそれぞれ 1.0%、4.6%となっている。

上中流部では、自然を活かしたキャンプ場や運動公園、ゲートボール場等さまざまな利用が見られる。

上流部には、緑仙峡、青葉の瀬等多くの水辺の利用があるが、甲佐町井戸江峡では、大きなつり橋がかかり、その先に広がるキャンプ場では、夏場多くの人で賑わっている。中流部には、河川敷公園が点在し、中でも平成 13 年に完成したグリーンパル甲佐は、パークゴルフ利用者の多くに支持を集め、連日多くの人たちがパークゴルフで汗を流している。そのほか、ラジコン飛行場等がある。下流部や御船川、加勢川では運動公園だけではなく、農地(採草地)としての利用みられ、花火大会等のイベントにも利用されている。



グリーンパル甲佐(24/100～24/400)※1



つり橋とキャンプ場(井戸江峡)※1



水辺における魚釣り※2



水面を利用したジェットスキー※2



河原でのバーベキュー※2



御船があ〜っぱ祭り※1



緑川ダムフェスタ

写真

※1 国土交通省熊本河川事務所

※2 水辺の国勢調査

※3 国土交通省 緑川ダム管理所

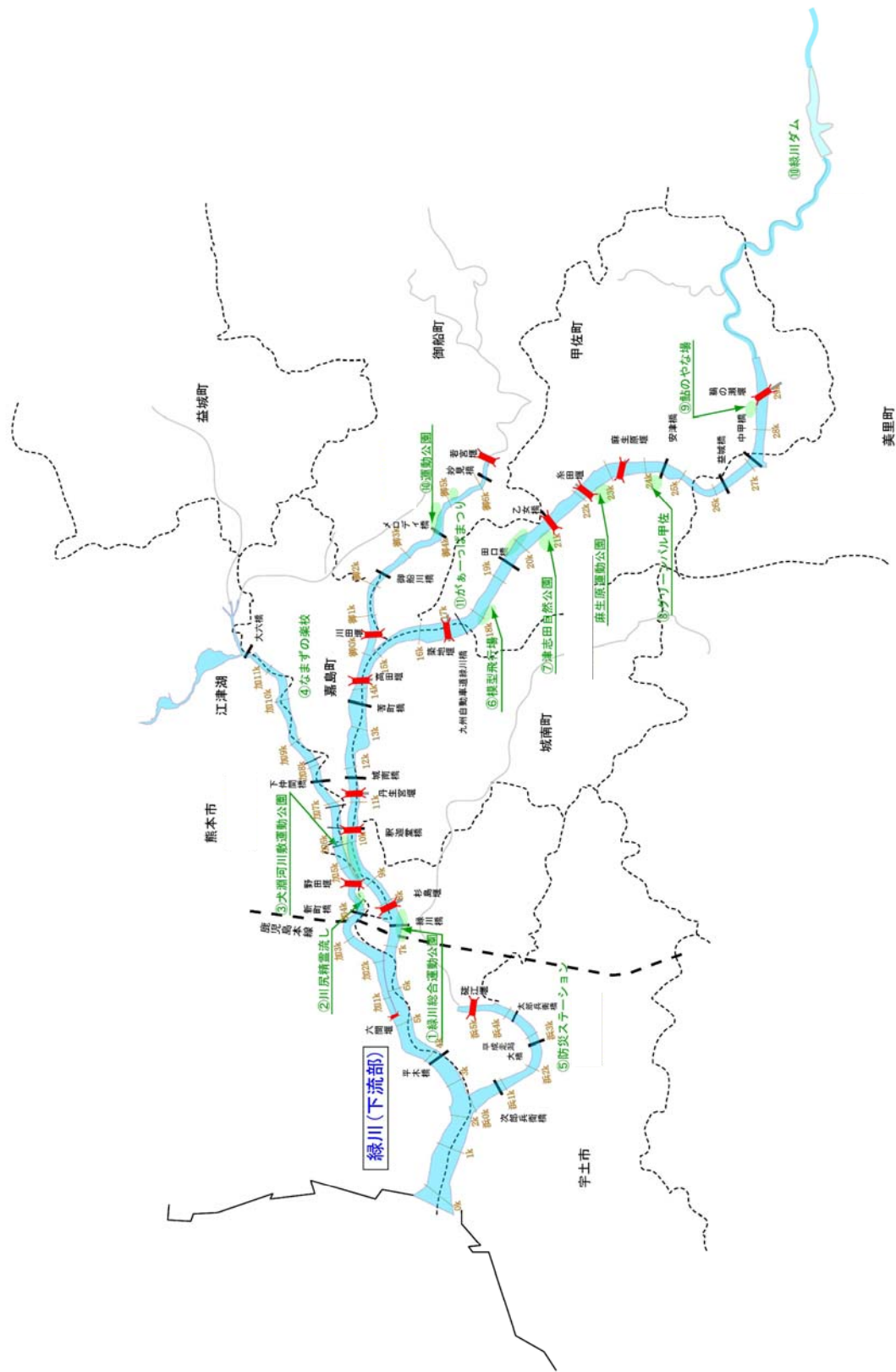


図 8-2 緑川空間利用状況